



沖縄高専だより

Okinawa National College of Technology



(ロボコン全国大会優勝)

目次

- | | | | |
|---|-----|---|----|
| 1. 校長より
(高専ロボコン全国制覇と1期生の就職内定率100%)..... | 2 | ○パソコン甲子園グランプリ 連覇達成 | 14 |
| 2. 1期生へ送る言葉(第5学年担任)..... | 3 | ○プログラミングコンテスト競技部門予選通過 | 15 |
| 3. 卒業にあたって | 4~5 | ○第43回全国高等専門学校体育大会
女子バスケットボール部・女子テニス部 | 16 |
| 4. 第1期生の進路状況(中間報告) | 6 | 11. 地域連携事業
沖縄高専フォーラム・やんばる産業祭り
学校開放事業等 | 17 |
| 5. 第1期生たちの写真 | 7 | 12. 後援会より | 18 |
| 6. 第4学年 インターンシップ体験記 | 8~9 | 13. 保健室より | 18 |
| 7. 高専祭 | 10 | 14. 平成21年度学生募集結果一覧 | 19 |
| 8. 「専攻科」設置に向けて | 11 | 15. 学生課窓口案内 | 19 |
| 9. 「JABEE」への取り組み状況 | 11 | 15. 平成21年度(前期)行事予定表 | 20 |
| 10. 学生の活躍
○アイデア対決全国高等専門学校
ロボットコンテスト優勝 | 12 | | |

国立 沖縄工業高等専門学校

〒905-2192 沖縄県名護市字辺野古905番地
TEL:0980-55-4003(代表) FAX:0980-55-4012
HP:<http://www.okinawa-ct.ac.jp/>



高専ロボコン全国制覇と 1期生の就職内定率 100%

校長 系村 昌祐

平成 16 年 4 月 10 日に第 1 回入学式並びに開校式を挙行し、1 期生の皆さんに「初心忘るべからず」と述べ、今日の日の感激を忘れることなく日々精進していただきたいとお話してから早くも 5 年の月日が流れました。私自身も初めての高専校長職として、1 期生の皆さんと一緒に 5 年間過ごしてきました。一度は学生寮の宿直室に泊まり、夜間の見回り、朝の点呼に立ち会いました。レストランには、まだ、パン焼き器が無く、創造実践棟には水飲み器もありませんでした。企業から来られた先生方が多く、15 歳の若い学生諸君に接するのは初めてという教員も多い中、手探りで教育が始まりました。1 期生の諸君には、沖縄高専を立ち上げていく作業に協力していただいたわけで、感謝しています。

沖縄高専創設準備委員会委員としてご尽力いただいた、崎間晃氏（当時沖縄県経済団体会議議長、琉球銀行相談役）や前沖縄県工業連合会会長 故金城名輝氏（当時オリオンビール社長）から、沖縄高専への期待の言葉とともに、学校ができて終わりではなく、できたあとも産業界は沖縄高専を支援すると言われました。金城会長を引き継がれた島袋周仁会長のご尽力の下、1 期生を受け入れた 2004 年の 4 月下旬には、沖縄工業高等専門学校産学連携協力会の設立総会を開いていただきました。総会の席で、沖縄高専の学生がロボコンに出場するのであれば支援する、3 年で九州優勝、5 年で全国制覇を期待すると言われ、とてもそこまでは無理と内心思っていたものです。それが、まさに 5 年目にして全国制覇の快挙です。3 年連続の全国大会出場、そして開校 5 年目にして全国制覇という偉業は、夏季休業中も合宿してロボット制作を頑張った学生諸君の努力が第一ですが、彼等を支えた教職員、父母、産学連携協力会の企業の方々のご理解並びに物心両面でのご支援があったからこそと思っています。全国大会派遣にご寄付いただいた父母の皆さまには紙面を借りてお礼申し上げます。よちよち歩きで他高専から技術を教えて貰った沖縄高専が、強豪揃いの九州地区で一目置かれるようになったことは、学生諸君にとっても良い励みになることでしょう。ちなみに、今年の地区大会は沖縄高専が担当し、11 月初旬に名護市で開催の予定です。

さて、未曾有（みぞう）の世界同時経済危機の中で、就職希望の 5 年生 75 名は全員就職が内定しています。沖縄労働局の発表による就職内定率は、高専を短大と一緒にしていますが、文部科学省では、大学、短大、高専の就職状況を区別しており、沖縄高専の就職内定率は 100% です。すでに、2010 年 3 月卒業予定の 2 期生に対する求人活動も始まっており、就職活動をはじめている 4 年生も居ます。就職を考える学生諸君にとって、来年度は厳しい年となるかも知れません。高専生に対する企業の期待は相変わらず大きいと思いますが、売り手市場から買い手市場になって来ています。自己の能力を磨くとともに、就職活動（就活）と同時に企業側の採用活動（採活：求人活動）も十分調べる必要があります。正規社員と非正規社員あるいは派遣労働者等についても勉強して下さい。就職する側は労働条件も気になるでしょうし、企業で何をしたいか、何をさせて貰えるかを考えますが、企業側は新卒採用者が将来、企業にどれくらい役立つかを見るわけです。1、2 年生の諸君は、卒業がまだまだ先のことと思わず、将来何をしたいか、何ができるか日々自問していただきたいと思います。

アメリカ合衆国第 35 代大統領ジョン・F・ケネディの大統領就任演説の中の有名な一節を記します。「国家があなたに何をしてくれるかを問うのではなく、あなたが国家に対して何ができるかを自問してほしい。」

国家と言う文字を別の言葉に置き換えて考えてみましょう。

…… 一期生へ送る言葉 ……

機械システム工学科



担任 眞喜志 隆

機械システム工学科 1 期生の諸君、卒業おめでとうございます。43 名の入学者のうち、進路変更等で、今回卒業したのは 36 名となりました。このうち、就職は 20 名・進学は 16 名で、全員の進路が決定しており、うれしく思っております。就職して社会人として活躍する諸君は、これまでの学生生活とは大きく違って、社会人としての責任が求められることとなります。進学する諸君は、大学生として、今以上に深い専門分野を学ぶこととなります。これから、どのような進路に進むにしても、常に新しいことに興味をもち、考えて行動できる技術者になるように心がけてください。また、これまでの沖縄高専での 5 年間の忘れないでください。沖縄高専は、あなた方一期生が創ってきた学校と言っても過言ではありません。この 5 年間で出会った友達・教員・職員とのつながりを大切に、これからは、沖縄高専がどのように成長していくのか、卒業生の立場で見続けて下さい。

小職も高専の教員は初めての経験であり、担任として様々なことを勉強させていただき感謝しております。最後になりますが、社会に貢献できる技術者となることを目標として、これからの人生を楽しんでください。卒業おめでとうございます。

情報通信システム工学科



担任 野口 健太郎

1 期生とは、2 年生の時に私が赴任してからの付き合いで、3 年生から 5 年生まで担任をしました。4 年生になる前までは、特に男子学生は幼く、大丈夫かなという不安を抱いていましたが、4 年生のインターンシップで社会を垣間見ることで、少しは成長したような気がしました。そして、5 年生になってからの就職活動や編入学準備など、先輩がいない分、いつから、何をどうやって、どこまですればよいのかを手探りで一生懸命に頑張っていました。我々教員の方が、皆の進路が決まるまで 1 期生よりドキドキしていたのかも知れません。そのような意味では、1 期生は肝が座っていたのかも知れません。(中には、単なるのんびり屋もいたと思うのですが…) これを書いていると、すべてがあっという間の出来事のように感じます。

一期生にとって私の存在は、時にはうるさい先生だったかも知れませんが、高専における学生生活や今後の人生に少しでもプラスに働いていければうれしい限りです。ぜひ数年後、沖縄高専に来て、後輩に先輩として何かしらの声をかけてくれることを望んでいます。

メディア情報工学科



担任 正木 忠勝

メディア情報工学科 5 年のみなさん、ご卒業おめでとうございます。今年卒業するみなさんは沖縄高専の第 1 期生として入学しました。高専についての情報も充分に無く、校舎も寮も半分しか完成していない状況で、沖縄高専への進学を選択した意志の強さとパイオニア精神に満ちた決断は 1 期生の入学後の活躍を物語っていると思います。

本校には、私もそうですが、企業出身の先生が多く、前職では授業をしたことが無く本校に赴任して初めて授業をしたという先生が少なからずいます。学生からの要望や意見によって我々は教員として育ててもらいました。1 期生のみなさんは、自分たちが学校を作り上げてきたのだという、自負と気概をもってください。

メディア情報工学科の 5 年生は 3 分の 1 が進学し、3 分の 2 が就職します。進学する学生はこれまでと違った環境で新しい仲間と先生を見つけ、さらに高度な知識・技術を身につけてください。就職する学生は 4 月から社会人として、高専で学んだことや経験したことを活かし、入社した各企業で先頭に立って活躍して欲しいと思います。

1 期生のみなさんはこれまでは沖縄高専を作り上げてきましたが、今後は沖縄高専と社会とを結びつける礎となってくれることを期待します。

卒業する 5 年生の活躍を期待しています。

生物資源工学科



担任 池松 真也

1 期生の皆様の卒業に際しまして、ご祝辞を贈らせていただきます。特に、生物資源工学科の皆様には、私の着任以来のつき合いとなり、短い期間でしたが、私には長～い夢をみたような感覚です。

「え～、本日から皆さんに生化学を教えることになった池松です。よろしくお願いします。」「池松せんせ～い、そこ間違ってると思いますけど・・・」「先生、いったい、私たち、どんなところで働けるんですか？」講義の中でのつき合いが、前担任であった高野先生の琉大への異動に伴い、私が担任をさせていただくことになりました。その後、初めての就職・進学に向けてクラス全員「Happy End で卒業式を迎えよう！」をスローガンにやってきました。初めてのインターンシップ、初めての研修旅行、初めての就職試験・編入試験、初めてづくしの今となっては、どれも楽しい思い出です。

さて、今度は皆さんの「Dream」の実現です。各人各様の道を進むことになります。何年か経ってバツリ会ったときに、笑って楽しくお話しできるよう、お互いがんばっていきましょう。

最後に、T 君を説教したときの言葉を皆さんの饅頭に贈らせていただきます。「ねえ、T 君、たとえ世界中の人が君を裏切ったとしても、君のしてきた努力は決してあなたを裏切らない。そうは思わんか！」 それでは、皆さんお元気で。Good Luck !



……卒業にあたって……



機械システム工学科

伊禮 昭平

私が沖縄高専に入学してもう5年の年月が経とうとしています。15歳から20歳の5年間というのは、人生の中でも特に貴重な期間と言えるでしょう。その全てを沖縄高専の中で過ごしたことを、これから十年経った後にどう評価するでしょうか、満足するのか、それとも後悔してしまうのか。高専の生活は有意義な時間だと断言できますが、辛いこともありました。勉強についていけず、自己嫌悪に陥り学校を辞めたいと思ったことも何度かありました。しかし、そのような辛さは熱病のようなもので、過ぎ去ってしまえばなんて言うことのないものです。おかしな言い方になりますが、『過去』を思い返すのは『現在』の自分であるので、思い出が辛いものになるか、楽しいものになるかは今の自分の状況次第なのだと思います。後悔していることもいくつかありますが、沖縄高専で5年間を過ごせたことは、今の自分自身にとって大切な財産だと思います。これから社会に出て辛いこともあるでしょう。しかしこの学校生活で学んだことを活かし、自分を高めることで困難の中にも道を切り開き、自分の力で幸せを得ることが沖縄高専で過ごした5年間に対する恩返しになると思っています。いつかこの学校生活を思い返したときに、楽しい思い出だったと思えるように歩いていきたいと思います。

當山 雄一郎

今、卒論の提出に迫られながらこの文章を書いています。沖縄高専での5年間を振り返ってみるといつもそうでした。レポートは提出日の前日にしか手をつけず、テスト勉強もほとんど一夜漬け、挙句の果てには5年間の集大成ともいえる卒業論文までも提出日直前に焦っている状況が情けないです。

第1期生として様々な方面から大きな期待をされていたことは誰かが感じていたと思います。果たしてその期待に応えられているかには疑問が残りますが、沖縄高専の『学生』として過ごす中で多くのことを学び、かけがえのない仲間と出会えたことが喜びであり、また大きな誇りでもあります。寮生活も今となっては懐かしく、非常に貴重な時間を過ごすことができました。初めて親元を離れ1人で暮らしていく不安を抱きながら入寮しましたが、新しい仲間との生活の中でその不安も薄れていくようになり、とても居心地のいい場所となりました。消灯時間を過ぎても、明け方まで他愛のない話で盛り上がっていた日々が寮での最も印象深い思い出です。

卒業にあたり沖縄高専の第1期生として道をつくることはできたのかと考えています。細くて頼りない道しか切り拓けていないかもしれませんが、これからの後輩たちが未来へ続く道を広げ、固めていってくれることに期待して卒業していきたいと思っています。

情報通信システム工学科

照屋 朝秀

沖縄高専に入学して早5年、入学したころが懐かしいです。寮生活や授業など、初めてのことがばかりで驚きと戸惑いの連続だった1年目。日々の寮・学校生活にも慣れ、仲間と部活動に励んだ2年目。専門科目が増え、高専生としての自覚が出てくる3年目。将来のことを考え、就職活動が始まる4年目。これらすべてがつい先日のような気がして、月日が経つ早さを実感しています。

そんな高専生活ももう終わり、卒業するときがやってきました。自分は4月から就職するので、今年が最後の学生生活となります。沖縄高専に入学して様々なことを学び、体験してきましたが、今思えばもっといろんなことに挑戦しておけばよかったという後悔も少しあります。社会人になると、おそらく学生ほど自由な時間がとれなくなるでしょう。10代という若さと自由な時間は、何かに挑戦するにはうってつけだと思います。学業に限らず、スポーツや趣味に力を注ぐことで、人との繋がりや自分の視野を広げることができるはずです。今の4年生以下には、ぜひ学生時代に色々な分野に興味を持ち挑戦して欲しいです。

これから社会人になるにあたっては、一期生として、沖縄高専の名に恥じない仕事をしていきたいです。高専生活で得た経験をもとに、優れた技術者になれるよう向上心を持って努力したいと思います。

外間 大地

1期生として不安と希望を抱いて入学してから早くも5年が経とうとしています。入学してすぐに行われたオリエンテーションを受けた後、無事に5年間で卒業できるのだろうか心配したのを覚えています。なんとかここまでたどり着く事が出来ました。5年間を振り返ってみると、自分にとって高専生活の中心になっていたものはロボコンの活動でした。入学当初、ロボコンについての知識は全くありませんでしたが、今まで経験したことのないスケールの大きいものづくりの楽しさに一気に夢中になってしまいました。ロボコンに夢中になりすぎ学業がおろそかになっていた時期もあり反省しなければなりませんが、後悔はしていません。ロボコンに関するノウハウや技術が全くない状態からスタートし、5年間かけて全国優勝するまでの過程で学んだことは簡単に説明できませんが、絶対に普通の授業では学ぶことが出来ないものであり今後の人生で自分自身の大きな支えになっていくものだろうと感じています。これから沖縄高専に入学する新入生、また現在沖縄高専にいる学生の皆さんも、学生生活の中で何か夢中になれるものを探し、いろんなことにチャレンジして欲しいです。



……卒業にあたって……



メディア情報工学科

砂川 茜

具体的な夢などないまま入学したのが5年前。そんな私が「プログラミング」に出会い、好きになり、「プログラマー」という夢をみつけ、叶えたのがこの5年間です。

分岐点となったのは2年生の冬休み明け。それまで特別な目標も持たないまま過ごしていた日々を変えたのが「プログラミングコンテストに出ない？」というメディアの正木先生からの一言でした。

それから夏休みや空いている時間を費やしてプログラミングの勉強をしながら3年生、4年生とプログラミングコンテストに出場し、最終的には全国5位、審査員特別賞をもらうことができました。

私がプログラミングコンテストを通して学んだことは誰かと1つのモノを作ることの楽しさや楽しさ、そして自分たちが作ったプログラムが動くことの喜びです。また、いくつかの地域を訪れ、多くの人と出会うことができました。各地で食べたおいしいものも数知れず……。それに、視野が広がり、精神的にも成長できたとおもいます。

私たちは新たな舞台に立とうとしています。いくつもの困難に出会うでしょうが、課題の嵐にも負けず、仲間と協力して乗り越えてきた経験が高専で学んだ技術力が原動力になるでしょう。

嘉手苺 弘昂

「僕の前に道はない、僕の後ろに道はできる。」という言葉をご存知でしょうか。これは高村光太郎という人が書いた「道程」という詩の一節です。

早いもので、僕たちが沖縄高専に入学してから5年の月日が経ちました。1月の成人式で大人の仲間入りを果たし、3月には沖縄高専の卒業式を迎え、社会人になる者や進学する者など、それぞれの新たな一歩を踏み出していきます。

ところで、「僕の前に道はない」のなら、僕の前には「何」があるのでしょうか。

僕たちは、無限の可能性が広がる未来へ自分の「道」を作っていかなければなりません。正しい方向へ進めるとは限らないし、苦しい方向へ進んでしまうこともあるでしょう。それでも、信じ合える仲間に出会えたり、あるいは生涯を共にする人に出会えたりすることもあるのではないのでしょうか。誰も知ることの出来ない未来へ歩き出していくのが「人生」ならば、僕らの前には「未知」があるのだと思います。

それぞれの「未知」、何が起こるかは未だ知らないけれど、いつか振り返ってみた時に自分に自信を持てるような立派な「道」を作っていきたいですね。

「ありがとう」や「さようなら」は何か似つかわしくないで…「行ってきます！」

生物資源工学科

大城 守

5年前の私は沖縄で生物や環境について学ぶことができる学校を探しており、生物資源工学科のある沖縄高専の開校は非常に嬉しかったことを覚えている。私の高専生活は非常に密であり、短く感じた5年間であった。入学当初、校舎は完成しておらず、教職員や学生の数が非常に少なく、どことなく物足りない学校であった。今ではすべてが充実した学校になったのではないかなと思う。

私の在籍する生物資源工学科では、生物資源をいかに有効活用するかということを中心に幅広く様々な分野を学んだ。高専では実践的な授業が多く、実験を中心に進める授業や、最近の研究者や企業が注目する研究の紹介、先生方の体験談が授業に組み込まれることが多々あった。また、インターンシップや講演会など勉強するだけでは得ることのできない体験をさせてもらった。

高専での5年間を通し、県内には高専を支えてくれる多くの人々がいることを知り、地元沖縄への恩返しをしたいと思うようになった。私は卒業後、県外の大学へ編入学をするが将来は沖縄に戻ってきたいと思っている。沖縄に戻るまで、高専で学んだことを活かし、さらに成長したいと思っている。

最後に、私を5年間サポートして下さった教職員の方々、友人の皆にお礼を申し上げます。

根路銘 葉月

私たち一期生が沖縄高専に入学して、はや5年が経ちました。

入学した頃はまだ半分しかなかった校舎も次第に工事が進み、いつの間にか完成した姿となりました。今ではその校内で1～5学年の学生、そして私たちを支えて下さる多くの教職員の方々が同じ時間を過ごしています。

入学して1、2年の頃は数学や物理の授業のペースについていけず、どんなに勉強しても追いつくことのできない悔しさに涙を流すことが多かったことを覚えています。しかし、何度も問題を解き、ようやく満足のいく試験結果を受け取ったときに、『努力は人を裏切らない』という言葉の意味を知りました。今こうして卒業を迎えることができるのも、がむしゃらに勉強していたあの頃の不器用な私がいたおかげだと思います。

この学校では勉強だけではなく、5年間共に学び、成長し、笑い、また多くの壁を乗り越えてきた、『最高の友人』を得ることができました。私はこの出会いに心から感謝しています。

私は4月から、熊本大学工学部の3年次に編入します。また新たな出会いや学びがあると思いますが、自分の方向性を見失ったときには、原点である沖縄高専で過ごした5年間を思い出し、夢を実現できるように希望を抱いて歩いていきたいと思っています。



進学・就職状況



平成 21 年 3 月、5 年間の学生生活を修了し、本校から初めて卒業生を送り出します。
現在、5 年生は卒業後の進路について、着実に成果を出しています。

= 就職状況 =

沖縄高专では、平成 21 年 3 月に第 1 期生 147 名が卒業する予定であり、そのうち 75 名が就職を希望しています。
平成 21 年 1 月 30 日現在、就職採用内定率は 100% となり、計 66 社の企業から就職希望者全員が採用の内定を受けました。また、沖縄高专への求人企業は、400 社を超え、県内外企業の沖縄高专生への期待の大きさがうかがえます。

【求人票提出企業】 県内企業 47 社 県外企業 356 社 H21.3.9 現在

	機械	情報	メディア	生物	合計
求人数※ 1 (求人票の送付のあった 企業の数)	387	387	317	272	1363
就職希望者数※ 2	20	17	27	11	75
内定学生数	20	17	27	11	75
採用内定率 (内定学生数 / 就職希望者数)	100%	100%	100%	100%	100%
内定先企業名 ※ 3 (県内) 県内に 本社のある企業	沖縄電力 (2) 沖縄コカコーラボトリング	沖縄電力 沖縄菱電ビル システム 沖縄日立 O C C (2) トーセ沖縄 (2) ハーベルリウムコム	アイディーズ 沖縄電力 GNA トーセ沖縄 (2) 琉球ネットワークサービス	アクシオヘリックス (2) オキハム	
	内定学生 3 名	内定学生 9 名	内定学生 6 名	内定学生 3 名	内定学生 21 名
	内定者に占める割合 15%	内定者に占める割合 53%	内定者に占める割合 22%	内定者に占める割合 27%	内定者に占める割合 28%
内定先企業名※ 3 (県外) ◎は沖縄県内に支社ま たは事業所がある企業。	M テック 三洋化成工業 資生堂 新日本製鐵 中部電力 東海精機 東京電力 電業社機械製作所 ◎日機装 日本モレックス ◎PAP 富士電機システムズ ◎ベアック 三重金属工業 三菱電機ビルテクノサービス ムラテック 安川電機	◎出光興産 ◎N T T ネオメイト 関西電力 JR 西日本 新日本製鐵 ダイキン工業 東海鉄工 ムラテック	アクセントアテクノロジーソリュー ションズ ◎アプリックス ◎安藤証券 (2) 大阪ガス ◎出光興産 京セラ ◎神戸テクノス 国立印刷局 コベルコシステム (2) さくら情報システム サントリー デージーネット 東海鉄工 東京エレクトロニクス トヨタコミュニケーションシステム ネットイットワークス 富士通アドバンストソリューションズ ◎ブルーオーシャンシステム ◎ユニアデックス	旭化成 花王 サントリー 三洋化成工業 (3) メイテックフィルダース シーフォービジネスインテ グレーション	
	内定学生 17 名	内定学生 8 名	内定学生 21 名	内定学生 8 名	内定学生 54 名
	内定者に占める割合 85%	内定者に占める割合 47%	内定者に占める割合 78%	内定者に占める割合 73%	内定者に占める割合 72%

※ 1 求人票については、学科指定のある場合はその学科にカウント、学科不問の場合はすべての学科にカウントしています。

※ 2 「就職希望者数」は平成 21 年 1 月 30 日時点のデータ（進学と就職の両方の可能性ある学生を含む）です。

※ 3 同一企業から複数名の学生が内定を受けた場合、その内定数をかっこ () 内に示しています。

= 大学 3 年次編入学試験合格状況 (平成 21 年 2 月 18 日現在) =

	大学名等	機械	情報	メディア	生物	合計
国 公 立	公立はこだて未来大学システム情報科学部		1			1
	市立高崎経済大学 経済学部				1	1
	弘前大学農学生命科学部				1	1
	群馬大学工学部	1				1
	電気通信大学電気通信学部			1		1
	長岡技術科学大学工学部	1	1	1		3
	富山大学理学部				1	1
	信州大学経済学部				1	1
	筑波大学理工学群、生命環境学群	1			1	2
	東京工業大学生命理工学部				1	1
	静岡大学情報学部		1			1
	豊橋技術科学大学工学部	3	4			7
	大阪大学工学部		1			1
	和歌山大学システム工学部			1		1
	島根大学生物資源科学部				1	1
	香川大学農学部				2	2
	愛媛大学農学部				1	1
	九州工業大学情報工学部		2	1		3
	佐賀大学農学部				4	4
	熊本大学工学部				1	1
私 立	宮崎大学工学部		1			1
	琉球大学工学部、農学部	5	1	2	1	9
	成安造形大学造形学部			1		1
合 計	九州産業大学 芸術学部				1	1
	合 計 (延べ人数)	11	12	7	17	47
	合 計 (実人数)	11	10	7	15	43

第1期生たちの写真



1年 集合写真



1年 機械システム工学科



1年 情報通信システム工学科



1年 メディア情報工学科



1年 生物資源工学科

… インターンシップ体験記 …

機械システム工学科

4年 糸数 建太

私はインターンシップに行く前、会社はどんな雰囲気だろうか、難しい課題を任されたりしないだろうか、と不安になると同時に、会社の雰囲気を知る良い機会だと期待もしていました。実際に会社に行くと、社員の方から丁寧な説明を受けながら課題をこなすことができました。また、様々な話を聞くことで会社について知り、働くということについて考えさせられました。今回のインターンシップ生を担当してくださった若い社員の方は、入社して2年未満にも関わらず、他の方に指示を出しながら働いていました。その時の様子が、非常に生き活きとしているように見えました。その方は「自分はデスクワークよりも、現場で働くほうが向いているし、楽しい。」と仰っていました。その言葉を聞き、自分も仕事が楽しいと思えるような職に就きたいと考えるようになりました。以前は、仕事を金を得るための手段、と割り切ってしまう考えも多少は持っていましたが、何十年と働く以上、自分に向いていない、楽しいと思えないような職に就くのは勿体ないと気付きました。継続するにはやる気が必要であり、やる気を維持するにはやりがいが必要だと思います。将来、「働くことが楽しい」と胸を張って言えるような職に就けるよう、今後も努力し続けます。

4年 我謝 翼

今回のインターンシップで私は、仕事を行うことの大変さ、そしてなにより、技術者として働くことの楽しさを実感しました。

私は、日本ガイシの商品開発センターに2週間インターンシップに行きました。

内容としては、開発中の製品の気密性チェック方法の考案と、実際に考案した方法により気密性のチェックを行い、製品の性能評価をするというものです。

しかし、実際に作業を開始すると予想外の事態の連続でした。まず、使用していた機械の故障です。この機械が無いと作業が進行できない状態であったので、非常に困惑しました。しかし、担当の方は非常に冷静でメーカーと連絡を取りながら機械を修理してしまいました。

さらに、実験に使うために注文していた部品が届いたと思いきや、寸法が間違っており装着できないという事態に、さすがにこれはどうしようもないので、実験の内容を変更して対応しました。

このように、今回の実習は全くといってよいほど、予定通りに進みませんでした。

しかし、実際に仕事をすれば、予定通りに進むことのほうが少ないと思います。むしろ、この経験から、予定外の事態にどれだけ素早く、適切に対応できるかということが、良い技術者である一つの条件であるということを学びました。

情報通信システム工学科

4年 砂川 真純

私は、東京エレクトロンFE株式会社において10日間のインターンシップを経験しました。東京エレクトロンFEは、半導体製造装置の立ち上げ・メンテナンス・改造・システムバージョンアップなどの事業を行っている会社です。

実習は熊本と東京の2ヶ所で実施されました。まず、熊本での工場見学や実際の機器の一部を使っての実習体験では、クリーンルームや製造装置の分解・組立・調整など、初めて経験することがたくさんあり、実習中は全てのことがとても新鮮でした。次に、東京でのビジネス研修では、企業におけるプレゼンテーションスキルや簡単なビジネス英会話の講習を受けました。学校では学ぶことのできない企業側の“生の声”を聞く機会を得ることができて大変貴重な時間になりました。

また、他高専からきたインターンシップ仲間とも打ち解け、実習時間以外の時間も楽しく過ごすことができました。

最後に、このインターンシップでは初日に飛行機に乗り遅れるという失敗もありましたが、企業担当者に連絡をとったり、次の便を予約したりするなどの自分のできる最大限の対応をすることによって、企業の人や先生方からは怒られずに済みました。この経験によって、失敗しても“報告・連絡・相談”することを忘れずに行動することが大切だと身をもって知りました。

4年 奥濱 真也

私は、愛知県の犬山市にあるムラテックC.C.Sという工作機械などのアフターサービスなどを主に行っている会社に6日間インターンシップに参加しました。会社はとても広く、たくさんの社員が働いていて、初めてこういう場所を見たのでとても新鮮でした。社員の皆さんもとても明るく、会社全体としていい雰囲気でした。

インターンシップでは「めざせフィールドエンジニア!」というテーマのもとに、「手仕上げ、加工技能実習」「パンチプレス（レーザ加工）技能実習」「コンベヤ、シーケンサ制御調整実習」「スタッカー・クレーン、無人搬送者調整技能実習」という実習プログラムを4日間かけて行い、最終日にそのまとめとして成果発表をしました。

私は専攻が情報通信系なので、手仕上げ作業で文鎮を作るときなど初めてやる作業が多く、やすりがけでマメができてしまうなどとても苦労しました。しかし、その苦労した分だけ、完成したときには非常に達成感があり、ものづくりの大変さと喜びを学ぶことが出来ました。その他の実習でも初めてやる体験がほとんどでしたが、社員の方々も優しく教えてくださったり、やるべきことを一生懸命取り組んだりすることで、とても充実した時間を過ごすことができました。

… インターンシップ体験記 …

メディア情報工学科

4年 栗秋 太一

私は神奈川県にある株式会社ヒップという会社に二週間お世話になりました。株式会社ヒップは、機械・電子・システム分野の設計や開発を行っている会社です。私はシステム開発を行っている部署に配属されました。

業務内容は新人研修のようなものでした。先輩方からの講義を受けたり、他の学校から来たインターンシップ生の方とグループを組み、システム開発作業を行ったりしました。今まで知らなかった技術を知ることができ、とても勉強になりました。職場は想像していたよりも明るい雰囲気、楽しく作業をすることができました。

業務時間外でも多くのことを学ぶことができました。インターンシップ中は会社の社員寮で過ごし、インターンシップ生の方や会社の先輩方との共同生活をしました。他の地域の学校の話や職場の話など、いろいろな話が聞けていい経験になりました。食事の準備は自分で行うなど、学校の寮生活とは違った経験ができました。また、電車で通勤をしたため、電車に乗ることに慣れることができました。

インターンシップを通して多くの人と共同作業を経験し、コミュニケーション能力を高めることができました。また、職場の雰囲気を知ることができ、就職後のイメージをつかむことができました。この経験を今後の進路選択にいかしていきたいです。

4年 八幡 美希

私は県内のソフトウェアの開発を行っている会社にお世話になりました。会社では主に E-learning 開発の手伝いをさせてもらいました。具体的には、E-learning で扱う教材を手順書の通りに揃えたり、i モード版のデザインの修正をしたりする作業です。作業の内容は難しいものではなかったのですが、情報セキュリティなどの問題からデータを慎重に扱うことや、最終的なデザイン案や手順書の通りに作業することはこれまでしたことがなかったもので、良い体験になったと思います。

会社の雰囲気は仕事とお昼休みでガラリと変わっていました。仕事中はほとんど誰も話さずフロアは静かですが、お昼休みになれば楽しげな雰囲気になると思います。集中とリラクスの切り替えがきちんとできて、作業に集中しやすい環境でした。

1 日目は緊張していたので、仕事の中の社内のギリギリとした空気には不安もありましたが、お昼休みに女性社員の方々とお話しすると、気さくで優しい方々でとても安心しました。2 日目以降は配属先の部長や担当の方に相談するなど助けを借りながら、与えられた仕事をこなしていくことが出来ました。

インターンシップの2 週間はとても充実していて、あっという間に過ぎてしまいましたが、IT 系企業で働くイメージを得ることができて良かったです。

生物資源工学科

4年 仲村渠 志郎

私は、県内の泡盛メーカーである「久米島の久米仙」の製造工場で2 週間のインターンシップを行いました。

この会社を志望した理由は、高専で専門科目を学習していくうえで、微生物の持つ豊かな可能性に触れ、発酵に興味をもつようになったからです。

はじめの2 日間は、できた泡盛を商品にする生産ラインで検ピンや箱詰作業を体験しました。ここでは、不良品を出さないようにするための品質管理の大切さを学ぶことができ、また、社員の方々とコミュニケーションの大切さを実感しました。

実際に泡盛を造る製造ラインでは、蒸米から、製麹、仕込み、蒸留、分析の全行程を実際に体験させていただきました。各工程ごとのポイントや質問などにも丁寧に答えて頂き、また、この仕事のやりがいなどについての話もしてもらい大変勉強になりました。

島袋社長にも多忙のなか講話の時間を割いて頂き、「泡盛造りは子育てのように」という泡盛造りに対する心構えの話などに感銘を受けました。

今回のインターンシップでは、実際の醸造現場に入り、麹菌が生える様やもろみの表情や臭いの変化して行く様を体験し、発酵への興味が一段と強くなりました。この経験は私の進路を明確にするうえでの良いきっかけとなりました。

4年 神谷 志織

私は大阪府にあるシオノギ製薬株式会社でインターンシップを行いました。この会社を選んだ理由は本土の大企業という競争社会に触れ、沖縄にはない製薬会社の現場を体験したいと思ったからです。

研修では他高専生と共同で実習を行うことができました。初めて出会った人との実験や実習、意見交換や高専同士の情報交換はとても新鮮で多くの刺激を受けることができました。

社員の方々もとても親切に教えて下さり、充実した研修を送ることができました。和気藹々と楽しく仕事をしながらも、真剣に作業をこなす姿は活気に満ち溢れ、仕事のやりがいや責任の重さを教えてくれました。

この機会を通し、電車の乗り方も知らなかった私が、知らない土地で約1 週間生活を送ることができたこと、他高専生と交流することで多くの考え方に触れることができたこと、実際の会社の雰囲気を感じ、仕事だけではなく人としての生き方も学ぶことが出来たことなど多くのことを学んだ濃密な期間でした。

このような体験ができたのは、コンタクトをとって下さった平山先生、お金を補助してくれた両親、研修で関ったシオノギ製薬の方と他高専生のお陰だと思っています。すべての人たちに感謝し、ここで学んだことを無駄にせず、立派な社会人になれるよう日々前進していきたいです。

高専祭

高専祭を終えて

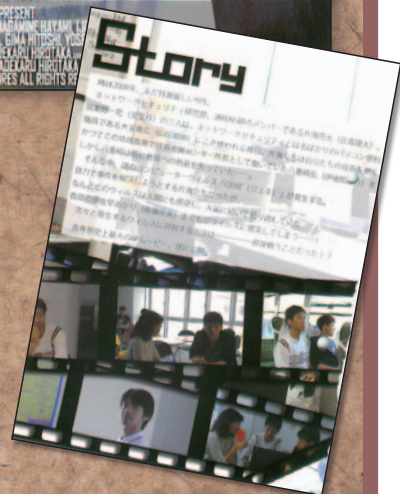
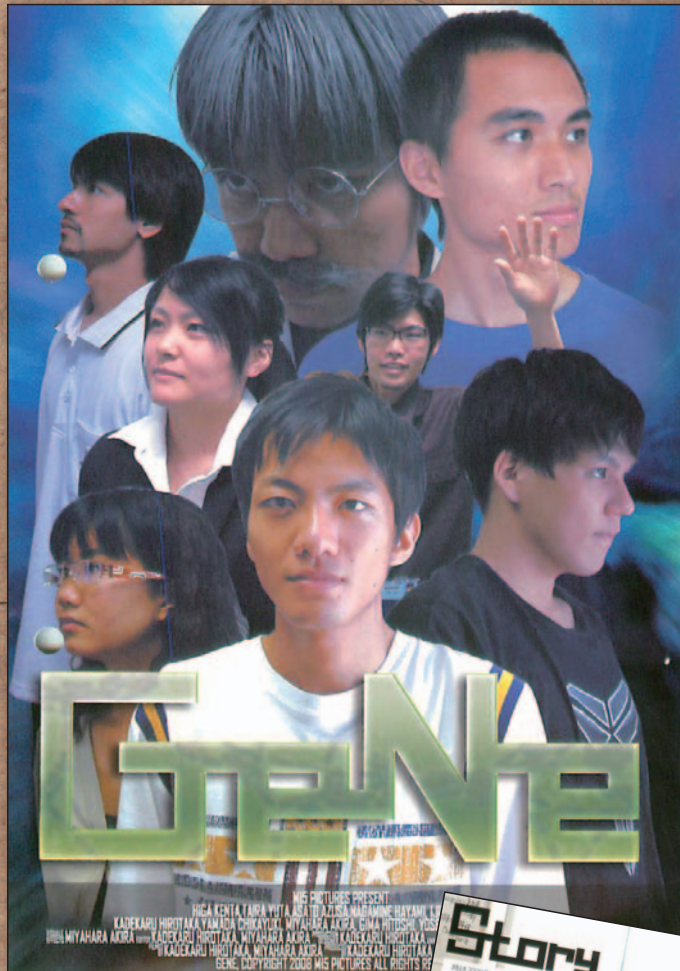
高専祭実行委員長 澤岷 健太

こんにちは。高専祭実行委員長を務めました、情報通信システム工学科4年の澤岷健太です。

沖縄高専では、去る11月8日～9日に第4回高専祭が開催されました。今回の高専祭は、Infinite Creativity～ここからできること～というテーマを設定し、設立5年目である私達高専生の無限の創造性を、父母や地域の方々、これから沖縄高専を目指す中学生にもっと知ってもらうために行いました。高専祭を計画していく上で大変だったのは、まだ新しい学校ということで、何かをやろうとしても経験がなく、一つの事を決めるにも多大な時間を要し、何でこの仕事を引き受けたのかなと後悔することが何度もありました。

しかし、高専祭終了後に今回の高専祭も楽しかったよ、という声を父母や学生からのアンケートでいただいたときの達成感は他では決して味わうことの出来ないものだと思います。

最後に、来場してくださった方々、高専祭を実行する上で支えてくださった教職員の方々、一緒に仕事をしてきた実行委員の仲間、高専祭を創った全学生の皆様、ありがとうございました。





専攻科設置への取り組み状況

情報通信システム工学科 知念幸勇

沖縄高専では平成 21 年 4 月の専攻科設置に向けて、高専機構本部と文科省にたいして、専攻科設置計画の趣旨と内容を説明してきましたが、このほど沖縄高専に専攻科を設置することへの基本的な理解が得られ、文科省の平成 21 年度概算要求の中に専攻科の設置（沖縄高専）として予算が織込まれました。概算要求と平行して、“認定専攻科”となるように、大学評価・学位授与機構に認定申し出書を提出しました。大学評価・学位授与機構の認定要件には、教育課程は、大学教育に相当する水準を有するものであること、授業科目を担当する教員は、大学設置基準に定める教授、准教授、講師又は助教の資格を有するものであること、などがあげられており、専攻科の授業を担当する教員は学位審査会が指定する、担当する専門分野に関する専門委員会により審査されます。認定申し出書には専攻科を担当する教員の研究・教育業績の内容が詳細に記載されているため、専門委員会ではその内容が大学教育を担当する水準にあるかどうかを判断することができます。平成 21 年 2 月 13 日にその審査が終わり、沖縄高専を大学評価・学位授与機構が定める要件を満たす専攻科として認定する旨の通知がありました。

本校の専攻科は平成 21 年度予算成立を経てから設置されるため、1 期生と 2 期生の入学選抜時期が近くなるなど、非常にタイトな立ち上げスケジュールを組まなければならないと考えられますが、学生の入学と授業に支障がないように専攻科設置検討委員会で準備をすすめています。

JABEEへの取り組み状況

生物資源工学科 山城秀之

沖縄高専では平成 23 年度の JABEE 認定を目指し、現在 4 種類のプログラムが進行しています。受審分野もいくつかに分かれています（機械工学関連分野、情報工学関連分野、生物工学関連分野）。一方、JABEE の認定基準は固定的なものではなく、毎年変更されていますので受審年度によって適用内容が変化します。平成 20 年度は 4 名の委員が JABEE 審査講習会（日本機械工学会主催、電子情報通信学会他主催、情報処理学会主催、日本生物工学会他主催）に参加し、最新の情報収集に努めてきました。これまではどのような教育を行ったかに力点が置かれていましたが、今後はそのプログラムを修了した学生はどのレベルにあるかという教育成果（outcomes）が重視される方向に進むようです。更に、時間数についても対面時間（授業）が重視され、自学自習の時間は授業時間には計上されません。従って、教育改善システムがうまく回っているかが益々重要になります。沖縄高専の教育改善システムはまだ不完全な状況にあるので PDCA（Plan, Do, Check, Action）サイクルがうまく機能する方向に動いていかなければなりません。これには全教職員の共通認識が必要であり、負荷も増えます。

平成 21 年度 4 月からは専攻科もスタートする予定ですし、専攻科でのプログラム実施に向けての新たな取り組みも始まります。初めての本科卒業生が出る時に専攻科がスタートし、JABEE の受審も 2 年後に迫る、という前例のない取り組みです。皆様の益々のご支援ご協力、どうぞよろしくお願いいたします。



… 学生の活躍 …



第 21 回全国高等専門学校アイデア対決ロボットコンテスト優勝

10 月 19 日 (日)、大分県別府市内で行われた九州・沖縄大会で、沖縄高専 A チームが優勝、B チームが審査員特別賞を受賞し、A チームが全国大会に出場を決めました。

11 月 23 日 (日) 東京・両国国技館で全国高等専門学校のトップを決める大会が開催されました (本校は全国大会 3 回連続出場)。「多足歩行から二足歩行へ」のテーマで、春から取り組んできた成果が発揮され、大会新記録となる 38 秒で、見事初優勝しました。その模様は 12 月 30 日 (水) NHK 総合テレビの 9 時のゴールデンタイムで放映されました。



ロボコン全国大会に優勝して

機械システム工学科
4 年 玉城 光輝 (部長)

ロボコン全国大会に優勝して、僕はとても嬉しかったです。しかし、とても嬉しいという言葉で形容できるような思いだけではありませんでした。それは、ここにいたまでの道のりが楽しかっただけでなく、つらかったり、悔しかったり、本当にいろんなことがあったからです。

1 年生のころからロボコンを始めて四年間、毎年のように夏休みは無く、ロボコン以外の思い出がほとんど無いくらいロボコンに打ち込んできました。そのなかで、ロボットがスタートゾーンから出られなくて悔しかったことや、メンバーと喧嘩をしたこと、調子によって先生に怒られたこと、うまくいかなくてあきらめかけたことなど、たくさんありました。

その中でやってこられたのは、毎年一緒に活動していて、時には厳しい指摘をしてくれるメンバーと、いつでも僕たちのことを気遣ってくれる顧問の先生方、そして全力でサポートしてくれる技術支援室の先生方のおかげだと思います。

いろんな人たちに支えられて勝ち取った優勝を、心から喜び、一生の思い出としたいと思っています。

機械システム工学科
4 年 白久 レイエス樹 (リーダー)

今年度の競技ルールが発表される 6 日前の、2008 年 4 月 19 日土曜日、私は沖縄高専 A チームのリーダーに推薦されました。昨年悔しい思いで地区大会を去ったということ、中学生から続けてきたロボコンを今年で最後にするという決意もあり、「開校初の全国制覇」をチームの目標に掲げたいと、チームメンバーに提案しました。全会一致で提案目標は採用となり、その日から大会当日まで、チーム一丸となってロボコンに取り組みました。

しかし、放課後は寮が閉まる直前まで活動し、授業が無い土・日曜日や長期休暇も休み無しで続けてきた結果、夏休みの中頃、疲れて体調を崩す人がでてきました。体力的、精神的にも限界に達していたときに、チームを活気づけるために、メンバー全員で考えたチーム理念を紹介したいと思います。

毎日作業を始める前に、全員でこの理念を呼称しました。

- ・感謝の気持ちを忘れない
 - ・挑み続ける
 - ・一致団結
 - ・メリハリつけて楽しく元気に
- 全国優勝、ヨシ！

最後になりますが、陰でサポートしてくれた大変多くの保護者と先生方、今まで数え切れないほど迷惑をかけましたが、おかげで優勝を勝ち取ることができました。本当にありがとうございました。

機械システム工学科
4年 比嘉 翔弥

「感謝の気持ちを忘れない！挑み続ける！一致団結！メリハリつけて楽しく元気に！全国優勝良し！！」これは、Aチームのチーム理念です。今年度は全国優勝を目標に頑張ってきたので、優勝できてとてもうれしく思います。

今回は操縦者として大会に臨みました。自分が失敗すれば負けてしまうので、大きなプレッシャーを感じましたが、自分さえ失敗しなければチームを勝利に導くことができると考えミスの無い操縦を目指しました。そのためにはたくさん練習して体にしみこませる必要があると思います。多日日では、午前中だけで100回ぐらい練習しました。練習量ではどの高専にも負けなと思います。そして、たくさんの練習をこなすことによって、しだいに自信ができました。そのおかげで、全国大会で優勝することができたと思います。

最後に、ロボコン活動に対する学生の皆さん、保護者の方および教職員の皆さんのご協力とご理解の賜物と感謝し、厚く御礼を申し上げます。

情報通信システム工学科
4年 阿嘉 倫大

今年度は念願の全国優勝を達成することができました。それも、開校5年目にして卒業生が出る前にその快挙を達成できたことを大変嬉しく思います。

今回の全国優勝は今年度だけで作り上げられた成果ではなく沖縄高専でロボコンが始まったときから現在までの5年間の成果として現れたと感じています。今でこそ強豪校となった沖縄高専ですが初期の成果は散々なものであったり、チーム内での意見の対立によるトラブルなど多くの苦労がありました。ですが、幸いなことにロボコンに協力してくれた多くの方々のおかげで私たちロボコンの部員は整った環境の中でチームとしてロボットを作ることと専念することができました。そのおかげでさまざまな苦勞に直面しながらもその苦勞を乗り越え、そのたびに多くのことを学び、その成果を今回全国優勝という形で残すことができました。

多くの苦勞と努力を費やしたロボコンでしたがこの活動を通して私は本当に多くのものを得ることができました。そして、多くの苦勞があったにもかかわらずロボコンでの活動は本当に楽しいものとして記憶に残っています。

ロボコンを通じて得たものを今後の生活でいかしていければいいと思います。

機械システム工学科
5年 饒平名 知真

沖縄高専一期生そして、5年目という立場で全国優勝を果たすことができ、本当にうれしく、卒業前の最高の記念になりました。優勝した瞬間、メンバー全員で抱き合ったときに、なぜか“卒業”の文字が頭に浮かびました。おそらく、高専に入学して何よりも熱中したのが、このロボコンだったからだと思います。

僕が入学したときは、校舎さえ未完成の状態でしたが、開校1年目からロボコンに出場することができました。1年生だけでロボットを作ったときの苦勞は今でも忘れません。当時は知識や技術もほとんどない状態での製作だったので、自分たちで作ったロボットがただ動くというだけで感動さえ覚えました。そして、まさに卒業するまでに全国優勝を経験できるとは想像もしていませんでした。

今年は卒業の年なので、進学活動や卒業研究などで忙しい中での参加だったため、ロボコンばかりに集中できませんでしたが、最後のロボコンだったので、悔いが残らないように、僕ができることは全てやりましたし、他のメンバーもそうだったと思います。みんなの努力の結果が全国優勝という形で残ったことが、本当によかったです。

情報通信システム工学科
4年 中之蘭 祐也

私はマシンの制御を担当しています。

ロボコンは競技に勝てるマシンを作るのはもちろんなのですが、数々の試合を確実にこなす状態に保つことも重視されます。…例えば、前回の全国大会の1回戦、直前まで正確に動いていたマシンが、試合が始まったとたん電波操作に不具合が発生し敗北、マシンの性能を全て出し切れず不完全燃焼という形で終わりました。また、担当していた制御関係の問題だったのでとても悔しく思いました。

今回のロボコンは、次回の大会には参加が難しいまたは不可能のメンバーでチームが組まれていたので、メンバーにとって最後のロボコンでした。ゆえに、チーム結成当初に全国大会優勝を目標に掲げ、自分はこの目標を実現するためにも去年のような失敗が起こらないような回路を作ろうと思いました。

そして地区大会では優勝し目標の優勝にも一歩近づいたそんななかで、前回の大会のような原因不明のトラブルが起き試合に負けた夢を見ました。なので、全国大会ではこれが正夢にならないように整備に力をいれ、みごと目標の全国優勝を成し遂げました。

優勝はもちろんですが、マシンを全試合で正確に動かすことができ雪辱をはらすことができてとてもうれしかったです。

情報通信システム工学科
4年 照屋 唯久登

私にとってロボコンは今回で三度目の挑戦となります。

過去二回の挑戦では全国大会に二回とも出場しました。しかし、結果は振るわず悔しい思いをしてきました。今度こそ勝ちたいという思いでロボコンに多くの時間を費やしました。

ロボコンをするために犠牲にしなければならないものがたくさんあります。しかし、それでも私の中ではロボコンをする価値はあると考えています。全国大会優勝を目標に掲げ活動したこと、チームのために何ができるのか、どうすれば勝つことができるのか考え、それに向かって努力すること、チーム一丸となって活動した経験は私にとって大きな力になると考えています。このチームで活動して、全国大会で優勝したことは私の中で一生誇れる出来事になりました。

最後に、全国大会で優勝できたのは自分たちの力だけではありません。まわりで支え、応援してくれた人たちの存在がとても大きかったと思っています。

皆様のおかげで私たちは最大限の力を発揮することができ、優勝という最高の結果を得ることが出来ました。応援してくれた皆様本当に感謝しています。ありがとうございました。

情報通信システム工学科
5年 外間 大地

高専に入学しロボコンの魅力にとりつかれて5年間、毎日がロボコン中心の高専生活となっていました。これまでロボコンに参加してきて、大会では毎年悔しい思いをしましたし、大会までの製作期間中においてはお互いの意見の食い違いによる衝突等、辛いことはたくさんありました。しかし、そういったことを乗り越えてきた経験すべてが今年のチームにおいて大きく活かされたと思います。メンバーそれぞれの経験とこれまで築きあげたメンバー同士の信頼関係から生まれるチームワークこそが全国優勝の大きな原動力となりました。それから松栄先生、武村先生、松田先生には本当に感謝しています。夏休みの合宿や大会前の夜間作業など先生方には負担をかけてしまいましたが、先生方のサポートがなければ全国優勝は果たせませんでした。その他にも沖縄高専教職員の方々、後援会の協力があってこそ夢の全国優勝は実現しました。今後、後輩らには自分たちなりの目標をもってロボコンに挑んで欲しいです。そして全国の舞台上で活躍してくれることを期待し、出来る限りのサポートはしていきたいです。

第6回全国高等学校パソコンコンクール(パソコン甲子園)優勝

平成20年11月9日、福島県で開かれた「パソコン甲子園」で、本校の渡嘉敷拓馬君(メディア情報工学科3年)、石橋祐紀君(機械システム工学科3年)が優勝しました。渡嘉敷君は昨年も優勝し、連覇の快挙となりました。渡嘉敷君は映像担当、石橋君は音声を担当しました。



左から 石橋 祐紀 君 (機械システム工学科3年)
渡嘉敷 拓馬 君 (メディア情報工学科3年)

受賞作品『かえりみち』



「パソコン甲子園グランプリを受賞して」

メディア情報工学科
3年 渡嘉敷 拓馬

今回の作品は、優勝したものの、反省点の多い作品でした。

この作品を作る中で、第三者の意見の大切さを痛感しました。

具体的に何で痛い思いをしたのかというと、他者の意見を聞かなかったことにより、自分の頭の中に流れていたイメージと、実際の作品のイメージに誤差が出てしまっていたことでした。

これは、ほかの人に見てもらえばすぐに気づくことのできるものでした。

そしてそれに気づいた僕は、相方の石橋に一つ一つ確認しあいながら、出来損ないだった作品を、人に見せられる程度までに、何とか持っていくことができました。

そのとき、一緒に作品を作ってくれる人のありがたさに気づきました。

作品は一人では作れない、人に見せるものならなおさらだ、と強く思いました。

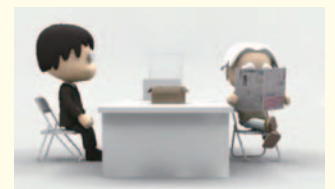
これからは、人に途中経過の作品を見せるのを恥じずに製作していき、最後には、人はもちろん、自分にも満足がいく作品を作っていきたいと思います。

機械システム工学科
3年 石橋 祐紀

作品を作っていく中で、私達はいろいろな方に支えられてきました。いつもバックアップしてくれた2人の先生、効果音制作に協力してくれた技術職員やスクーターを提供してくれた友人。そして、この大会に出場するために途中で抜けたにも関わらず応援してくれた後夜祭実行委員会の皆さん。この方たちの協力が無かったら、今回のグランプリ受賞は無かったと思います。

私はこの人達に感謝する意味をこめて大会で良い結果を残したかったので、グランプリを受賞したとき、グランプリ取れて「嬉しい」というよりも、「良かった」という安堵感でいっぱいだったような気がします。

この大会を通して、とても貴重な経験をすることができて良かったです。



第10回 理工系学生科学技術論文コンクール 優秀賞受賞



生物資源工学科5年の宮城央子さんが、第10回理工系学生科学技術論文コンクール（日刊工業新聞社主催、文部科学省・独立行政法人科学技術振興機構後援）で、優秀賞を受賞しました。授賞式は3月5日（木）東京・椿山荘で行われ、その後内閣府で佐藤勉沖縄担当相と野田聖子科学技術政策担当相に受賞の報告をしました。宮城さんのお婆様と池松真也教授も出席しました。

- 【優秀賞】 宮城 央子（生物資源工学科5年） 「科学技術と日本の将来—技術者と社会の歩み寄り」
 【入賞】 玉城 誠也（機械システム工学科5年） 「医と工に求められているもの」
 城間安紀乃（生物資源工学科5年） 「今こそ科学に感激を」
 高良 国慧（生物資源工学科5年） 「ビオトープによる環境保全」

プログラミングコンテストに参加して

情報通信システム工学科
4年 赤嶺 一馬

私は一瞬、会場の空気に飲まれそうになった。踊る無気力感。生気のない視線、定まらぬ目線、冷めた瞳…しかし安堵した様子で座っている学生達。同情しながら席に着き、私は正面を向いた。舞台の上では、盛り上げようと話す司会者と、投げやりな雰囲気解説者が、もはやエキシビジョンと化した本戦の実況をしていた。周りの観客も呆れの色を顔に浮かべている。～本戦の昼～ …あの時思ったこと、「バグってやっぱり、恐ろしい」

情報通信システム工学科
4年 久保田 浩幸

3度目のプロコン。初の競技部門出場。初日、作ったシステムが本競技に不向きであることを悟り、徹夜での修正作業を行う。窮地の驚異的な集中力でコードを打つが、同時に多発するバグ。間に合うか？焦りの中で、運営不具合にて後日再試合と知らせが。再挑戦のチャンスに、中間試験を掻い潜りながら土壇場で書き上げたコードで予選1位通過。しかし準決勝には対応しきれず空しく敗退を喫す。長い長いプロコンは静かに幕を閉じた。

情報通信システム工学科
4年 山川 太一

物事の本質を素早く捉えること。それをプロコンから学んだ。私たちは10月の本選まで間違った方針のプログラムを作製していた。そのことに気づいたのは本選中。負けたと思った。しかし、運営側のミスにより、運良く本選は12月に延期となった。すぐさまプログラムの改良に乗り出した。方針は見ており、あとは実装するだけである。しかし、時間が足りなかった。結果は2回戦敗退。もっと早く本質に気づくべきだった。

メディア情報工学科
4年 上原 龍生

私にとって初めてのプロコンへの参加であり、また同時に複数名でプログラムを作成するプロジェクトへの初めての参加でもありました。気心の知れた仲間との作業はとてもやりやすく、頼もしさを感じました。このメンバーだからこそ越えられた壁がいくつもありました。

仲間に恵まれ、多くのことを学んだ今回のプロコン、ここで学んだチームワークやコミュニケーションの大切さを、今後の様々な活動に生かしていきたいです。

第2回日本語スピーチコンテストに留学生が参加し熱弁

平成20年10月24日（金）、名護市国際交流会館において、第2回の日本語スピーチコンテスト（名護市国際交流親善委員会主催、名護市・名護市教育委員会・名城大学共催）が開催されました。本校からは、2名の留学生、グエン・ハンさんとラージャパクシヤ・ディネシュ君が参加しました。日本に来る前に努力したこと、日本に来てからの思いや将来の夢などについて力強く語りました。糸村校長他教職員も応援しました。

全国高等専門学校体育大会に参加して



= バスケットボール部 第3位 =

生物資源工学科 5年 安間 智美（主将）

私達が高専大会で結果を残すことができたのは、素晴らしい指導者と最高のメンバーさらに、バスケを思いっきりすることの出来る場所に恵まれたからこそだと思います。多くの関係者の方々には心から感謝しております。誠にありがとうございます。バスケットという部活を通して鍛えられた、精神力や忍耐力をムダにしないよう、今後につなげていきたいと思っています。

生物資源工学科 5年 大嶺 和可奈

本大会では、念願の一勝を果たし3位に入賞しました。ここまで来られたのも、手厚く指導して下さいった野崎先生と伊波先生、同じ目標に向かい努力したチームのみんな、支えてくれた両親や友人、応援して下さいった皆様のおかげだと思います。心から感謝しています。ありがとうございます。今後も努力していきたいと思っています。

生物資源工学科 5年 廣野 奈津子

私の高専生活は部活と言っても過言ではないほど部活中心の生活を送っていました。

全国大会は第一志望の大学との受験日がかぶってしまい悩んだりもしましたが、結果的には仲間と青春を駆け抜けることができ、とてもうれしく思います。今まで温かく支えてくださったお友達、先生方本当にありがとうございました!!

情報通信システム工学科 3年 奥間 可子

今年で3回目の出場となった全国高専大会では、3位という成績を残すことができました。高専という学校で、部活動ができるのは顧問の先生をはじめとするたくさんの人からの支えがあったからだだと思います。みなさんありがとうございました。

これからの活動も頑張るので応援よろしくおねがいします。

生物資源工学科 3年 森元 深雪

高専大会では、他高専との交流ができてよかったです。でも一番は、このチームでバスケットができて、本当に良かったということです。毎日一生懸命がんばれたのは、チームのみんな、野崎先生、伊波先生、他にも色々な人の力があってこそだと思います。また、他の高専を見て自分ももっとがんばろうといい刺激を受けました。

機械システム工学科 2年 知念 美怜

今年は全国3位という成績を取ることができました。5年生も忙しい中でしたが、最後の大会ということもあり一致団結し頑張りました。私は、今回の大会が2度目でしたが初めて試合に出ることができ良い経験になりました。

来年は沖縄での大会なので今年以上に活躍したいです。

生物資源工学科 2年 宮澤 舞

私は今年初めて、全国高専体育大会に参加しました。5年生最後の大会とあって、先輩達の輝かしいプレーにより、全国大会初の3位入賞となることができて嬉しかったです。私は今回試合には出られなかったのですが、来年こそは出られるよう、また全国大会に行けるよう頑張りたいと思います。

情報通信システム工学科 5年 内間 美鈴

私はマネージャーとして選手のサポートをすることができたことを、とても誇らしく思っています。優勝を逃したのは残念でしたが、選手全員が頑張って勝ち取った銅メダルを首にかけて頂いている瞬間はとても感動しました。一生忘れられない思い出です。

= テニス部 第3位 =

生物資源工学科 4年 重 マリ子

今年の全国高専大会は、私にとって2度目となります。去年の大会では、2回戦敗退という悔しい思いをしました。しかし、この悔しさをバネにして今まで頑張ってきました。今回はシングルスもダブルスも出場することができて、とても良い経験が出来ました。これからも、テニスを続けて頑張っていきたいです。

メディア情報工学科 2年 宮城 萌

高専全国大会でダブルス3位という成績をとることができてとてもよかったです。地区大会のときとはレベルも違い、楽しく試合をすることができました。準決勝で負けてしまったのはとても悔しかったけど、北海道も楽しかったのでよかったです。



… 地域連携事業 …



平成 20 年度地域共同テクノセンターについて

沖縄高専は、地域共同テクノセンターを窓口として、地域の振興及び発展、教育研究の充実並びに人材育成に取り組んでいます。平成 20 年 5 月に沖縄高専と名護市は、文化、産業、学術等の分野における連携の協定書を締結し、より一層地域との連携を強め、地域共同テクノセンターとしても連携への協力を行っています。事業として、7 月に学校開放事業、9 月に沖縄高専施設見学会、11 月末に沖縄高専フォーラム・技術交流会を実施し地域や産業界等との交流を図っております。また講師を招いて学生・教職員だけではなく企業等も参加できる講習会の開催や地域のイベント（やんばるの産業まつり等）に参加することにより沖縄高専の教育研究を地域へ発信しております。平成 20 年度は、離島の方でも出前授業を実施し、県内小中学生へものづくりのおもしろさと科学への興味をもってもらうことのお手伝いを行っております。



学校開放事業



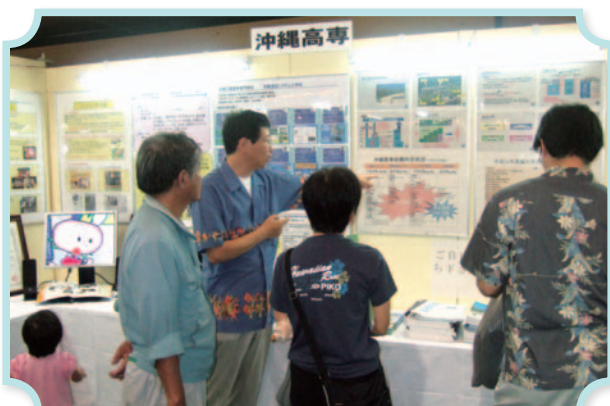
沖縄高専施設見学会



第 5 回沖縄高専フォーラム



やんばるの産業まつり



沖縄の産業まつり



出前授業

… 後援会より …

◆平成 20 年度後援会役員

役職名	氏名	所属支部名
会長	宮城 秋夫	南部支部
副会長	新垣 邦雄	沖縄支部
	親里 英文	沖縄支部
	胡宮 なりえ	浦添支部
理事	中本 正泰	北部支部
	長山 儀和	北部支部
	吉田 潤	北部支部
	目取真 康史	うるま支部
	町田 宗康	沖縄支部
	新垣 とも子	沖縄支部
	石垣 克夫	浦添支部
	新川 善勝	浦添支部
	崎枝 智	那覇支部
	我那覇 生男	那覇支部
	賀数 とも子	那覇支部
	馬場 宏	南部支部
	石川 清秀	南部支部
	狩俣 隆	宮古支部
	加藤 雅也	八重山支部
監事	喜納 隆	うるま支部
	上地 利夫	北部支部
顧問	糸村 昌祐	
	水野 正志	
	高木 茂	
	眞喜志 隆	
	濱田 泰輔	

第 5 期生を迎え、後援会の会員も最大規模となり、活動も活発になりました。

年間 6 回程の理事会で活動方針および実績、予算及び決算等を審議し、学校側とも情報交換を密にしています。北の北部支部から南の八重山支部まで 8 支部が結成されていて、それぞれ支部で、保護者・学生・家族を含めたボーリング、バーベキューなどで懇親を深めています。

先日は、学生会からお誘いのあった名護のツーデーマーチに参加し、とても爽やかなひと時を過ごすことができました。

大活躍の沖縄高専の学生達を支援しますので、今後ともよろしくお願いします。

… 保健室より …

保健室から見える学生の健康

大嶺 千代美

～インフルエンザ予防接種に関するアンケートの結果～

冬季休暇中に保護者の方にご回答いただきましたインフルエンザの集団接種に関するアンケートの回収率 29.4% (237 名) で、結果は「集団接種を希望する」206 名、「希望しない」31 名でした。希望しない理由は、「予防接種の効果に期待できない」、「副作用出現時の対応が心配」、「自己管理の判断や行動を学んで欲しい(社会に出たら全て自分でなくてはならないので)」等でした。保護者のご意見を参考に健全な学習環境が整えられるように検討したいと存じます。ご協力ありがとうございました。

～ 4 月には、今年の健康目標を立てよう！～

毎年、長期休暇の直後(4 月、10 月、1 月)に、思いがけないケガや病気で学校を休む学生が見られます。スポーツの前後にウォーミングアップ、クールダウンをきちんと行うことで、大きなけがを予防することができ、規則正しい生活(睡眠・食事・運動)は、風邪などの感染症から身体を守ることができます。新学期がスムーズにスタートできるように自分の健康目標を立てましょう。朝食は必ず食べる、ウォーキングに挑戦する等、健康にプラスになる実現可能な目標を立ててください。新学期も元気な笑顔で会いましょう！



… 平成 21 年度学生募集結果一覧 …



◆専門実習（自己推薦）による選抜

	受験者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
メディア情報工学科	17	11	3	3
合 計	28		6	

◆推薦による選抜

	受験者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	18	0	12	0
情報通信システム工学科	12	4	12	4
メディア情報工学科	16	15	3	9
生物資源工学科	19	15	7	7
男 女 別 計	65	34	34	20
合 計	99		54	

◆学力による選抜

	受験者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	55	2	27	1
情報通信システム工学科	41	8	21	5
メディア情報工学科	45	18	19	6
生物資源工学科	41	19	17	11
男 女 別 計	182	47	84	23
合 計	229		107	



… 学生課窓口のご案内 …



— 学生課窓口のご案内 —

保護者の方へ

学生関係の担当窓口は下記のようになっております。
 用件により、該当する係の電話番号へお問い合わせ下さい。
 受付時間は**平日の 8:30～17:15** となっております。
 なお、12:15～13:00 には充分に対応できない場合がございますのでご了承下さい。

教務係 0980-55-4028

学生係 0980-55-4032

寮務係 0980-55-4039

◆教務係

・授業、定期試験 ・教科書 ・休学、復学、退学、卒業 ・欠席、忌引、公欠、出席停止・保証人住所変更
 ・インターンシップ ・大学への編入学 ・研修旅行 ・学生証 ・在学証明書、成績証明書、卒業見込証明書 等

◆学生係

・各種奨学金 ・授業料、入学料免除 ・学割、通学証明 ・課外活動、各種諸行事
 ・バイク、自動車通学許可 ・就職関係

◆寮務係

・入寮、退寮 ・寮の諸経費 ・寮生の生活 ・在寮証明書 ・外泊の連絡

平成21年度(前期)行事予定表

4月			5月			6月			7月			8月			9月		
1	水	春季休業	1	金		1	月		1	水		1	土	サマースクール	1	火	夏季休業 寮整備・完全閉寮
2	木		2	土		2	火		2	木		2	日		2	水	
3	金	指導寮生開寮	3	日	憲法記念日	3	水	性に関する講習会(4年生)	3	金	性に関する講習会(5年生)	3	月		3	木	
4	土	入学式 新入生入寮	4	月	みどりの日	4	木		4	土		4	火		4	金	
5	日	在校生・部員・保護者・関係者(2～5年) 入寮式・寮対面式 2～5年生教科書販売	5	火	こどもの日	5	金		5	日	オープンキャンパス	5	水		5	土	
6	月	新入生オリエンテーション 2～5年生授業開始	6	水	振替休日	6	土		6	月		6	木	予備日(1, 4～5年生) 1年生への出身学校訪問説明会	6	日	
7	火	1年生授業開始 4・5年生健康診断 JABEEプログラム説明会(4年生)	7	木	体育祭代休	7	日		7	火		7	金	水曜日の授業(1年生) 火曜日の授業(4～5年生) 予備日(2, 3年生)	7	月	
8	水	1年生・専攻科生 健康診断・歯科検診・HR 1年生課題確認試験(数学)	8	金	水曜日の授業	8	月	予備日(2～5年生)	8	水	金曜日の授業	8	土		8	火	
9	木	2・3年生健康診断・ 歯科検診・HR	9	土	リーダー研修 (学生会主催)	9	火	前学期中間試験	9	木		9	日		9	水	
10	金	開校記念日	10	日		10	水		10	金	九州・沖縄地区高専体育大会 臨時休業日	10	月	前学期期末試験	10	木	
11	土		11	月		11	木		11	土	学校説明会	11	火		11	金	
12	日		12	火		12	金		12	日		12	水		12	土	
13	月		13	水	薬物に関する講習会(1年生LHR) 定期学生会議(学生会主催) インターシップ企業説明会(4年生)	13	土		13	月		13	木	学生寮居室点検・清掃	13	日	
14	火		14	木		14	日		14	火		14	金	試験返却日	14	月	
15	水	合同企業説明会	15	金		15	月		15	水		15	土	閉寮式	15	火	
16	木		16	土		16	火		16	木		16	日	閉寮	16	水	
17	金		17	日		17	水		17	金	九州・沖縄地区高専体育大会 臨時休業日	17	月	臨時休業日	17	木	
18	土		18	月		18	木		18	土	学校説明会	18	火	全国高専体育大会	18	金	
19	日		19	火		19	金		19	日		19	水		19	土	
20	月		20	水	性に関する講習会(1年生LHR) 地域清掃(学生会主催)	20	土		20	月	海の日	20	木		20	日	
21	火		21	木		21	日		21	火		21	金	全国高専体育大会 バスケット競技(沖縄) 夏季休業	21	月	敬老の日
22	水	交通安全講習会 (1～3年生、LHR、寮生)	22	金		22	月		22	水	クラスマッチ (学生会主催)	22	土		22	火	国民の休日
23	木		23	土		23	火	慰霊の日(授業なし)	23	木		23	日		23	水	秋分の日
24	金		24	日		24	水		24	金		24	月		24	木	
25	土		25	月		25	木		25	土	学校説明会 学校開放事業	25	火		25	金	
26	日		26	火		26	金		26	日		26	水		26	土	開寮・部屋替え
27	月	学生寮避難訓練	27	水	AED講習会(放課後)	27	土		27	月		27	木		27	日	開寮式
28	火		28	木		28	日		28	火		28	金		28	月	後学期開始
29	水	昭和の日 体育祭	29	金	高校総体 (総合開会式)	29	月	公開授業週間・寮見学会	29	水		29	土		29	火	
30	木		30	土	高校総体	30	火		30	木		30	日		30	水	
			31	日					31	金		31	月				
・蔵書検索講習会(1年生) ・地域ごみ拾い(学生会主催) ・学生寮居室点検・清掃			・学生寮居室点検・清掃 ・寮生総会(寮生会)			・九州・沖縄地区高専体育大会推薦 (学生会主催) ・学生寮居室点検・清掃			・学生寮居室点検・清掃 ・夏の寮祭(寮生会)			・学校説明会(宮古・八重山会場) 8月下旬～9月上旬 ・インターンシップ(8/15～9/27) ・中学校教員への学校説明と施設 見学会(2回開催) ・校内美化(学生会主催前期終了時)			・3年生研修旅行 ・1年生による出身学校訪問 ・一斉休業(18～27日)予定 ・図書館蔵書点検(1～11日)		

教務系行事 学生系行事 学生寮行事 学生会行事